

サッカー親善試合イングランド対フランス戦が追悼ゲームに！

昨夜行われたサッカー親善試合イングランド対フランス戦がパリ同時多発テロ事件の犠牲者を弔う追悼ゲームとなりました。サッカーの聖地ロンドンのウエンプレスタジアムには警察の厳戒体制のなかで約8万人の観客が押し寄せ英国としてフランスに対する弔いと、テロは許さないと言うメッセージを込めた連帯感を表現する場にもなりました。

ロンドンのランドマークの一つである、スタジアムの巨大なアーチもスタンドもフランス国旗の青、白、赤のナショナルカラー一色の元で両国の選手が入場しました。グラウンドで行われた追悼セレモニーにはウイリアム皇太子、キャメロン首相も出席して、両国の国歌斉唱の後一分間のサイレントが行われました。試合直前には審判も両国選手団も腕に喪章を付けてグラウンド中央で円陣を組み連帯感を表現しました。

BBCをはじめとするメディアのホームページからの追悼ゲームの写真をご覧ください。



フランスのナショナルカラーで飾られたウエンプレスタジアムのアーチ



一分間のサイレントを捧げるのウイリアム皇太子とキャメロン首相



審判、両国選手入り混じって連帯感を表現！選手の腕には喪章が見える

今回のイングランドとフランスのサッカー親善試合は前から予定されていたものの、先週金曜日のパリ同時多発テロ事件が発生したばかりで、試合会場が8万人収容の大型スタジアムだけに、国際サッカー連盟（FIFA）はセキュリティ立場から親善試合の中止が検討されました。一方フランスサッカー連盟も、フランスの選手の一人は今回のテロで従兄弟を失ったり、もう一人の選手は姉がコンサートに参加していて危うく救出され話もあつたりで、親善試合を行うことに躊躇があり、むしろ今回は中止して改めてパリでの親善試合が提案されました。しかし英国側からロンドンの主要な建物をフランスのナショナルカラーでライトアップして、かつ大観衆が集まるスタジアムもセキュリティに万全を期して、フランスのナショナルカラーでライトアップして試合を実施することで、フランスとの連帯感を、世界とテロリストへ強くアピールすることが必要だと、説得され親善試合の実施を了解したとされています。

幸い、何事もなく親善試合は2-0でイングランドが勝利して終了しました。実は試合当日は小雨模様強い風が吹き荒れ、キックオフの20:00頃には風速20mくらいに発達し、観客の入り心配されましたが、結局8万人が訪れフランス国旗を表す青、白、赤旗の上げ下げに協力し、連帯感が十分に表現できたと思われます。（了）